

【めむろ未来ミーティング】

令和元年 7 月 24 日（水）

9:30～10:55

めむろたすけ愛

■参加者 9人
■芽室町 町長
■記 録 矢野

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 質問事項の回答
- 4 意見交換

■対応等必要事項

①ボランティア保険の件（企画財政課）

【意見】

たすけ愛を頼んでいる人は車いすに乗っているためタクシーを利用するのは都合が悪く、そういう所でたすけ愛というのは便利だという利用者からの声がある。

ただ、問題も抱えている。たすけ愛に60歳代の人がいっぱい入って来てくれるとありがたいのだが、たすけ愛に入るのだったら、お金をもっと貰える等のことからシルバーワークセンターに行ったほうが良いという考えの方が多い。私の近くにも60代の若い人がいるが、個人の自由なので強くこちらに来てくれということも出来ず、自分から手を挙げて入って来てくれる方というのは中々おらず、結局は個人のボランティア精神に頼る部分大きい。

【町長】

具体的には、会員募集というのは会員からの人づてで行っているということか。

【意見】

それが多い。たすけ愛ではチラシを配ったり、一般公募ということはしたことがないので、そうした手法も良いかも知れない。

【意見】

私の意見としては、会・団体の性格として、シニアワークセンターのように大々的に募集するという性格の団体ではないと思っている。

あくまでも、ご自身の考え方が大切。たすけ愛に入っとういうことをやりたい、という風な考え方を持ってないと、利用者には高齢の方も若い方もいる中で人と人との関わりを重視する上では、あまりそぐわないと感じる。

例えば、毎年1度、12月ごろに会の年間の活動状況などの広報を回すが、会としてやっているのはその一度だけなのにも関わらず、その広報を見たので、と言ってくれる方も、つい最近なんかもいらした。そうした自発的な気持ちを大切にしたいと思っている。

【町長】

色々な団体と話をする機会があるが、どこの団体もそうした会員減少や高齢化に悩んでいる。そこでどうやってPRすべきか、どうやって会員を増やすかというご相談を受けているというのも事実。例えば、会長が言われたようにシニアワークのように大々的にやらなくともPRというより活動の実態を広報誌等で町民に対し示すことで、それに賛同して来てくれるという方が増えるという発想であれば、会としては良いと思う。

広報も現在色々な話題が盛りだくさんだが、年に数回でもそうした活動の状況や実態、そして、介助が必要な方のためになっているんだということを記事にするなど、そうした所のご支援は全然出来ると思っているし、そういう方法も一つとしてあるなど、今の話を聞いていて感じた。

会員募集ではなくて、活動の報告を行いつつ、勧誘ではなく、隅に「お気持ちのある方はこちらまで」程度のことを記しておくなど、お金のかかるような

ことではないし、良いのではないかなと思っている。

話は若干変わるが、障害をお持ちの方の親の集まり「どんぐり会」も、現在こういう時代なので、若い親たちは、あまりそうした会に関心を持たないということで、私としても、時代の流れを利用して、SNS等でPRをすると意外と食いつきがあるのではないかなというアドバイスもしている。

今言った手法が良いかどうかは分からないが、そうしたお手伝いならば町として出来る。せっかくこのような素晴らしい活動をされている訳であるし、しかも20年も歴史を持ってやっている訳なので、そうした広報誌の活動PRのようなものをしてはどうかと思う。

【意見】

年に1回の広報では不足なのかなと思ったりもするが、団体の運営状況というのは極めて金銭的な部分だが10年前とほとんど変わっていないというご指摘をある方に頂いた。それだけ、運営状況が厳しいということで、会のために活動して下さっている方たちに負担を軽くしてあげたいと思っても、中々出せる状況まで行かない。

また、提供の賃金がほとんど変わっていない。そうした意味でも、本当に働くという方は、この会は目指さないだろうという風に思う。だからこそ、そうした素晴らしい気持ちを持ってこの会に入っている方たちの意志を私は大事にしたいと思う。

簡単にSNSと言うが、必ずしも全員が全員ホームページを開いたり、スマホを使っている訳ではない。そうしたPRも完全に否定する訳ではないが、私としてはもっと目に見える形の広報が良いのかなと感じる。

【町長】

SNSをやってほしいというのではなく、たまたまどんぐり会の時にそんな話が出たので触れさせて頂いた。

今の時代は、PRをする時に色々な手段がないと厳しく、ホームページを用意する一方で、仰るように

パソコンを使わない人、持っていない人もいるため、紙ベースもきっちり残しておく必要もある。

以前は紙ベースだけで広報誌を配っておけば町民の皆さんが見られる機会があったのだが、現在は選択肢を広げないと難しい状況になってきている。私も決してSNSをゴリ押ししたいという訳ではないが、現在は情報提供にも工夫が必要であることを言いたい。

【意見】

確かに、若い方たちは本当に歩きながらも情報が得られるので、そちらのほうにも情報を流すという手法、それはそれで良いと私も思うのだが、会の実態を知って貰うにはやはり紙ベースのほうに重点を置くべきではないかという思いもある。

【町長】

もちろん、紙ベースではそうしたご支援は出来ると思うし、そうした活動報告をすれば少しでも目に留まると思う。20年前は相当この会は注目を浴びて、色々な取材を受けたり雑誌に載ったりしていたので、町民も、「たすけ愛という組織があるんだな」と分かっていたと思う。

ただ、やはり20年経ってしまうと、たすけ愛という団体がどういうもので、何人くらいいらっしゃるという活動をしているか、といったことが段々町民も分からなくなってきている部分もあるのではないかな。仮に60歳の方だと、会が立ち上がったのはその方が40歳の時だが、その時にたすけ愛のことが分かっていたかということ、分からないで20年過ごしている方もいる。

そうなると、今の段階で紙ベースでも色々お知らせすることによって、というのが必要なのかなと思う。活動は地道に続けていらっしまったと思うが、やはり代替わりなどもある程度してきているので、今一度そうした活動をPRするというのは、会員拡大のためにはありだと私は思う。

【意見】

私が会長になってから3年程かちまいがたすけ愛

に関して宣伝してくれたりしたが、かちまいの方も何年も続ける訳にはいかなかったようで、それから後はほとんど無く、総会の時だけ。

【町長】

私も記憶にあるが、当時、色々な所とも連携しながら、丁度介護保険の入るタイミングだったので、自立に近い方々に対する基盤というか受け皿として、すごく注目を浴びていたし、実際にそうした活動をされたので当時、介護保険制度と共に要支援者がたに対する希望の星というか、そういうイメージで捉えられたと思っている。

【意見】

十勝管内の集まりでたすけ愛について話す機会が何回かあったのだが、もう段々にそういったことも無くなってきている。皆さんたすけ愛活動について興味はあったと思うし、今でもあるのではないかと思う。

それと、私が自分でたすけ愛をやっていて思うのは、家に来て手伝ってくれて、病院に連れて行って、電話一本で来てくれて 600 円でやってくれるということで、こんな組織は無いということ。本当に町の財産だということを自分で思っている。

【町長】

燃料代なんかはどのようにしているのか。

【意見】

燃料代は、色々な方法があるが、大体 1 キロ 30 円で会が負担。あとは、利用者さんのご負担という部分もして頂いている。往路も復路も利用者さんが乗る時は、お乗りになった区間をキロ 50 円でご負担頂いている。

【町長】

では、600 円プラス、例えば 4km であれば 200 円プラスということか。

【意見】

申し訳ないが私も勉強中。提供者さん方が迷わないような方向性をきちんと示していけたらなと思っている。そういった意味では、会も負担するし、利用者さんもお負担を頂くということで、大変だとは思いますが、それが対等・平等という部分に繋がってくるのかなとも思っている。

後は、一番ネックになっているのが、車を運転した時に、万が一事故に遭遇した際などの保険について。昔から任意保険。ご自分の車なのでご自分の自賠責等で支払いを頂いた範囲で、利用者さんに対してもご負担をするというようなことで今来ている。幸い 20 年間事故もなく来ているが、昨今状況も変わってきているため、中々そういった提供が難しい時期にも入って来たと思う。

そうした意味で、こうしてボランティアで携わっている時の自動車送迎に関わる保険というのがなかなか難しい問題に感じる。ケガをした時に利用できるものはあるが、車の保証等がきちんと出来ていない。そこがネック①。

【広報】

町民ボランティアの保険というものがあるが、これはあくまでボランティアを提供する側を支える保険であり、利用者は該当外。ただ、今仰った車の絡みなどについては、保険会社のほうに再度確認をとった上で回答させて頂く。

【町長】

私たちが公用車というものを使っているように、何か専用の車があってその車自体に保険をかける、ということは出来るが、恐らく問題になるのは、この場合皆さんがそれぞれご自分の車を使っているということで、その移動時間も特定しないといけない故、そうした意味で中々車の保険というのは難しい。先程言った町民ボランティア保険は確かにあって、例えばイベントで TENT を畳む時に指をケガした時等に適用される。この保険は 10 年以上毎年かけているのでそちらのようなケースは問題がないが、やはり仰るように車の場合どうなるのか、そして、ご自分の所有ということでそこをどう扱うかが問題。

絶対にその活動中だったということを証明する必要があったりで、難しい。

その辺りは、担当の広報広聴係から回答したい。

【意見】

私も4月に入らせて頂いたが、その際どういった会かの説明を受けた時に、高齢者用というか、育児ネットの高齢者版、というような説明を受けた。

考えてみると、高齢者以外でも誰が利用しても良いわけであるのに、その事実がいまひとつ周知できていなかったり、そもそも存在自体を知らないという人もいると感じる。

例えば育児ネットであれば小学生までであり、送迎であったり塾の問題であったり、中高生以上のサポートも必要としている方も絶対にいると思う。そうしたことも含めて周知していけば良いと個人的には思うのだが、如何か。

【町長】

活動については、提供される側（利用者）は何か制限があるのか？

【意見】

ない。別に高齢者に限っているわけではなく、障害をお持ちの方も含めて、色々な方のサポートを行っている。今現在、一番若い方は塾の送迎で利用している。

【町長】

一気に利用者が増えすぎても困ると思うが、そうなる可能性としてはお互いにやはり、先程も話に出たが周知活動を徹底することが大切ではないか。

しかも、お悩みとして、現実に提供会員も少なくなっているということもあるので、先程会長の仰った大々的なことは趣旨からも適当ではない、という考えも十分理解できるが、とは言っても、20年が経ち、あまりに知られていないこの状況を考えると、やはりもう少し周知に力を入れるべきと感じる。皆さん素晴らしい活動をしていらっしゃるのに、そうしたPRが足りないのは勿体ない。

【意見】

今年、高齢者相談係とたすけ愛と、大ホールに集まった時に、「たすけ愛ってこういう活動をしているんですよ」という話はした。しかし、聞いていた人も聞いてくれてはいたが、分かって頂けたかどうかは分からない。

【町長】

例えば、会を紹介するパンフレットの的なものはあるのか？

【意見】

パンフレットの的なものはある。場所は、あいあいと町民活動支援センターに置いている。

【町長】

もし、会の中でもう少し周知活動をしたほうが良いのでないかという結論になれば勿論相談は受けるし、例えば、字の大きさや読みやすさ、写真を入れるなどレイアウトといった見せ方みたいなこともあるので、その辺りを相談頂ければ、役場の者が手伝って、ということも出来るので、もしご相談頂ければそうした方向でサポートできる。

【意見】

何でも自分でやらなければいけないというような思いもあったので、ご協力して頂けるということであれば、ご意見も頂きながらやりたい。

【町長】

確かに、ご自分でという思いは大切だと思うし、側面的な支援は活動の面で様々なサポートを行うことはできると思うので、是非ご相談頂きたい。

【意見】

例えば、毎月出している「すまいる」等で、社協であったり支援センターであったりに関する紹介が出ているが、ああした所にたすけ愛を載せて頂くことは可能なのか。数年前に企画財政課に載せたいと

いう相談をした際に、「お金を貰う組織であるから、ちょっと難しい」と断られた経験がある。お金を貰っているといっても少額であるし利益目的ではないのだが、それでも難しそうか。

【町長】

そこは考え方だと思う。営利団体を載せるというのは駄目だが、仰る通り皆さんは営利を目的とされている団体ではないので。あまり 600 円というのを（宣伝の際に）前に出してしまうとどうかと思うが、私のイメージとしては、本当に、年間 1 回でも、1 頁でも使って頂いて、活動内容の紹介などを行うのは良い案だと思っている。

毎月継続してやるとなると、原稿など用意するのが大変になると思うので年間 1 回きっちり活動報告という形で出すのが良いのではないかな。

【広報】

要は切り口だと思う。町長も言われたように、「たすけ愛ってどんな団体？」だとか、どんな活動をしているか、そして高齢化やなり手不足のこと、活動の風景、後は利用した時の流れという風に PR すると良いと思う。

会員にならないと利用できないとのことなので、そこをまず一般町民にもわかりやすくお知らせするという必要だと思う。

【町長】

別の視点だが、支援センターの登録団体のリレー式の紹介みたいな所にも入ってもおかしくないと思うが。

【意見】

センターの会報誌には出してくれた。ただ、やはり、大勢の人が目を通していかと言ったらそんなことはない。多分、今この場にいる人でも知らなかった人がいると思う。

【町長】

私が考えているのは、支援センターの登録団体の

紹介を広報誌で行うということ。例えば、2 団体ずつ紹介していったら、そこに、皆さんも登録団体として紹介させて頂くというやり方はどうか。

広報誌であれば、町民も割と見ている率が高いと思う。

【意見】

長年携わっている方が、認知症等も進んで来たり、車椅子になって、ケアマネの方も利用されるようになったりして、やはり自分では（事業者とのすり合わせの面で）色々と困惑する部分がある。

【町長】

そこは、ご家族の方も納得された上でお願いしているわけなので、信頼関係もあると思うので、自信を持ってやっていくのが良いと感じる。

【意見】

ケアマネやヘルパーの方とも話をして、助け合いが出来る部分、それからヘルパーがやる部分と分けてきたつもりだが、人が変わる関係もあるので、そういうものも伝わっていなかったのかなと思う。ご家族の信頼は素晴らしいものがあるので、私はその信頼をそのまま大切にしていきたい。多くの事業者さんが入ってくるので、その辺りの反省として、もっと密にしておけば良かったなと感じる。

【町長】

事業者間との連携も重要と思う。

【意見】

5 期総に関連して、町のもうちょっと踏み込んだ考え方が聞けたらと思う。

現在、国勢調査のデータを利用されているが、高齢者人口が今は 27.3%、これはどんどん上がって行くと思うが、そうなった時に、町の考え方として、適格な対応や色々な手立てをとっていく必要があると私は思っているので、「今後の政策展開」という、その部分を説明してほしい。

町としては、2026 年には 17500 人まで人口の減少

を抑えたいという展望を持っているようだが、その辺りの考えを具体的にお聞きしたい。

【町長】

まず、人口減自体を止めるということとはできないと思っている。人口に関しては、上士幌町は、現在増加しているが、道内でも札幌市を除いて178のうち、増加している市町村というのはもう1桁しかない。そうした状況から人口を増やすというよりは、正確には、減少していく幅を少なくするかが重要だと思っている。そのためには、まず、今現在住んでいる人が外に出て行かず、かつ長生きして頂く、そういった環境を作っていくことが大切。移住・定住でどんどん引っ張って来るというよりは、その前に今住んでいる人が、保健・医療・福祉も含めて安心して幸せに暮らせるかという所を大事にしていきたいということが一つ。

もう一つは、「地縁」。皆さんの団体も、ある意味では地縁組織であると思う。町内会加入もそうだが、よく私が言っているのは、昔は「向かい三軒両隣」というような感覚があって、現在は町内会の加入率が、ご存じかも知れないが60%にまで下がっており、すなわち4割の人が加入していない状況である。

勿論町内会が全てと言うつもりはないが、まさにこのたすけ愛の考え方と同様に、ある程度周りの人たちの顔を知っていて、共に暮らしていけるかという所、答えとしては漠然としていと感じられるかもしれないが、そうしたことに挑戦していきたいと思っている。

【意見】

私も町住宅などにお手伝いに行くことがあるが、感じるのがすごく町から遠いということ。出来ることなら、市街地から近い所に作って頂けると、当人の買い物などの点でも便利なのではないだろうか。

【町長】

そのとおり。今、全国的な街づくりとして「コンパクトシティ」、すなわち、市街地にある程度集約していくという流れがある。その中で、市街地が疲弊

していると良くないので、そこも活性化しつつ利便性を上げて、そして役場の横にあるような住宅も必要になってくると思う。

今、公営住宅のマスタープランと言って、人口が減ってきていることも鑑みて、今後の管理戸数をどうするか、あるいはどんな住宅を建てるのかといったことをやろうと思っている。平屋の古い公営住宅が沢山あるが、あの辺りに関しても本当に平屋のまま建て替えていくのがいいのか、ある程度エレベーターを設置して高い建物にするという手も考えられると思っている。

住んでいる方の意見として、新しくすると家賃が上がってしまうということで、今の狭いままで良いから安く建て替えてくれないか、というご要望もある。現在は、新しい建物になった時点で家賃が上がる仕組みになってしまっているので、やはり年金だけで暮らしていると、確かに厳しいと思う。

【意見】

住宅から人が出ていっている状況だと思うが、何故出て行くのかというと、やはり家賃が高いという理由が多い。そうした理由でこの間もまた一組出て行った。

【町長】

安価な住宅のニーズはあるので、その住宅も必要であることは認識している。

【意見】

お墓の件。共同のお墓を作って欲しいと感じている。

例えば、私が関わっている方で、お家にお父さんとお母さんのお骨が置いてある。もしその人が亡くなった後のことは、それはこぶしの会に言っていることだが、こうしたケースは、たまたまこの方がたすけ愛に関わっていたから可視化されているだけで、他にも沢山あるのではないかと感じた。

他の方でも、早く作って欲しいとアンケート等に行ったりしているのに、音沙汰がないと仰っている方がいる。今どういった状況なのか。

【町長】

合同納骨塚の問題は、課題としてはちゃんと捉えている。ただ、私も、マニフェストを含めて、検討はしている。難しい理由としては、周辺の町の状況も確認しなければならないし、帯広市は、一個建てた所、ニーズが異常に高かったという話も聞いている。また、お寺などの関係もあり、現在はそれぞれのお考えを聞いている状況。

実際にご意見としては、音沙汰がないと感じられるかもしれないが、そうした所を今確認している段階。要望が強いことは私も理解しているということには分かって頂きたい。

また、やるとしても、何でも合同納骨塚ありきではなく、本来は守っていかなければならない先祖の部分を投稿出してやるような感覚ではなく、やはりある程度の条件をきっちり付けなければならないと考えている。

ただ、一方で、墓を守り続けていけるような環境にない、独り暮らしでその方が亡くなったら無縁仏になってしまう、という問題を抱えた方が現在多く、これからも増えていくだろうという問題も理解している。

【意見】

じゃがバスが運行しているが、今年試験的にタクシー助成をやっているが、いわゆる、2時間程乗って行って都合の良い時間に目的地に達しても、その後2時間くらい置いていかれるとか、その後真っすぐ駅に行きたくてもいけないとか、循環なので難しい状況にあると思う。

やはり遠くに公営住宅があったりして、そこから来る方の用足しの不都合を解消するという目的で作られたという経緯があるのだと思うが、循環という性質上、今の状況だと、その不都合さというのが今一つ改善されていない印象を受ける。勿論、全てが改善されるとは思わないが、例えばデマンドにするとか、色々方法はあると思う。その辺りはどのようにお考えか。

【町長】

市街地と農村部はちょっと違う所があるが、じゃがバスに関しては、私はベターなのは、内回りと外回り、山手線のように2台で逆回りに運行すれば、2時間待たされるようなことはなくなっている。そうしたやり方が一番良いと思っているが、何せ、タイミングによっては人が乗らないということで、こうしたニーズが伸びていかないことには、中々2台目を新規導入というのは難しい。新規導入で恐らく車だけで3千万、それに加え運転委託が数千万とかかってくるものなので、簡単に「はい、やります」ということが出来ないというのも一つ。

ただ、今月の広報誌も見て頂きたいが、高齢者の事故や免許の返納も多くなって来る訳であり、ニーズとしては絶対的に上がるので、あまり悠長なことを言っていられないとも感じている。試験をやっているので来年くらいには、タクシー方式がいいのか、もう一度バスの循環を考えるのか、後は農村地区との繋ぎをどうするか等を考えたい。

例えば、スクールバスは町民は誰でも乗っていいとなっているが、中々孫世代達と一緒に乗り辛い方が多い。また登校時間のバスに、混み合っている中乗るのは難しいということがあるので、現実には難しい。

例えば、その後もう一本だけ同じ路線で出して、帰りは空いているスクールバス（下校時刻がバラバラなため）を利用して頂くなどの方法も考えている。お金のかかることなので、今すぐにやるということは難しいが、そうした色々な選択肢を考えていかなければならないかなと思う。

あとは経費の比較とニーズ。実施したけれど、全然乗らないという事態も考えられる。町民の皆さんからすると、自分ひとりが乗っても何も変わらないと思うかも知れないが、決してそのようなことはなく、やはり実績というのは大きい。乗っていることによって必要性が見直され、お金がかけられるという部分はある。

【意見】

農村部の人たちの意見をよく聞くが、結構お年寄

りが多く、やはり「免許を持っていたのにもう返してしまったので…」と、すごく辛そうな方を見る。本当にああした実情を聞いていると可哀想に思う。

【町長】

デマンドにしても、どこまで要望に答えるかが問題。デマンドバスというと玄関口まで来てくれるものだが、農村地区600戸ある中を全部デマンドでやれるかどうかは難しい。

これはデジタルの話になるが、現在「MaaS（マース）」という仕組みがあって、十勝バス等も取り組んでいるが、タクシー・バス・電車のある地域は電車も使って、如何に目的地に着けるかを調整してくれるシステムが存在する。例えば、何日の何時にここに行きたい、となった時に、このバスをこういう風に使えば着きますよ、ということを手配してくれる。農村部に関しては、このマースという方法は良いのではないかと感じる。ただ、使い方が分からないと使えないので簡単な操作でできるはず。

ところで、バスの話になると、小さいバスでいいから安く導入出来ないのかというご意見が出るが答えとしては、経費はほとんど変わらない。バスに関しては、車代というよりは、ほとんどが運転手さんの人件費になるので、バスのサイズは費用に大きな影響はないということをご理解頂きたい。

10:55 終了

